

# とびだそう 未来へ

目次

巻頭言

## ピンチをチャンスと 捉えてチャレンジ! ②

道德科を通じた新たな学校づくり

大橋 忠司

特集 / 学校全体をあげて行う道德教育

## 道德で学校をつくる ④

道德教育を核とした学校経営

村尾 行也

## 学級経営と道德授業 ⑧

学級通信を活用して

渋谷 美智子

新連載 / 道德授業をおもしろくする!

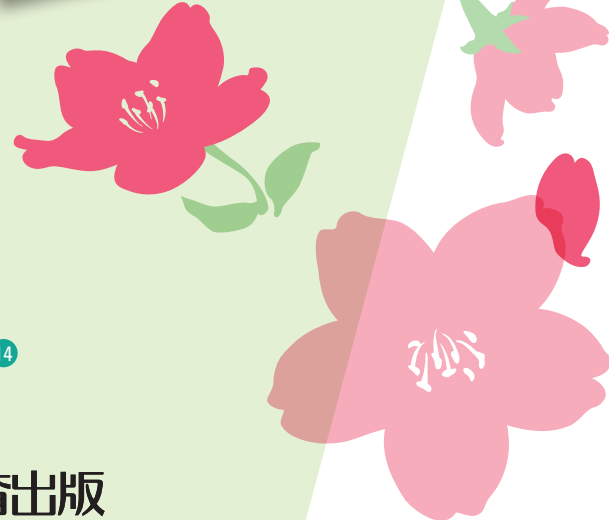
## 小さな道德授業を学級経営に生かす ⑫

鈴木 健二

連載 / いじめをなくす道德授業

## ありのままの自分を大切にできるクラスに ⑭

千葉 孝司



# ピンチをチャンスと捉えてチャレンジ！

## 道徳科を通じた新たな学校づくり



おおはし ただし  
**大橋 忠司**  
同志社大学教授

いよいよこの4月から、中学校でも「特別の教科道徳」（以下「道徳科」）が全面実施となりました。各中学校では校長先生のリーダーシップのもと、道徳教育推進教師を中心とした「チーム学校」としての体制で、道徳科を要とした道徳教育の推進に取り組んでいるところだと思います。また今年度は、全面実施から1年経った小学校道徳科の成果と課題が多くの研究大会や研修会等で発表され、議論されることだと思います。子どもの発達段階や学校運営のシステムは少し異なりますが、中学校の先生方も9年間の義務教育という小中一貫教育（狭義の意味ではなく）の視点に立ち、情報収集と意識改革の場として参加されるとよいのではないかと思います。

ご承知のように、道徳の教科化に向けた議論の発端は、深刻ないじめ問題でした。それまでも、時間割の中に位置づけられていた道徳の時間や、あらゆる教育活動を通じて（学校間で程度の差はあるとしても）いじめの防止に向けて取り組んできました。しかしながら、結果として十分な成果をあげることはできませんでした。

いじめに関する興味深いデータがあります。2017年に大津市が市内の小中学生に行ったアンケートで、「いじめは絶対にいけない」という考えに対し、「そう思う」と回答したのは78.8%、「やや思う」は

14.3%で、合計93.1%でした。一方、「いじめられる人にも原因がある」に対しては、「そう思う」は29.5%、「やや思う」は37.0%で、合計66.5%が肯定的であるという結果が出ました。子どもたちの本音とたてまえが、はっきりと見えた集計結果だと思います。（「平成29年度 いじめについてのアンケート【調査結果報告書】」大津市）

いじめられる側にも問題があるからしかたがないと考えている、悪いことだとわかっているが（止めるという）行動に移せない、そのような子どもたちに、どのように道徳教育を進めていけばよいのでしょうか。正しいことや大切にすべきことは何かを、頭では理解していてもなかなか行動に移せない人間としての弱さを認め、そのうえで、その弱さを乗り越えてよりよく生きていくにはどうすればよいか。教師と生徒がともに話し合い、考えを深めていくという姿勢が求められているのではないのでしょうか。このことが今回、教科となった道徳の授業に求められている、「考え、議論する道徳」への転換ということなのではないかと思います。

### 生徒指導の三つの機能を生かした道徳教育

週に1時間の道徳科の授業を、たてまえだけの意見交換の時間にせず、真の意味で充実したものとす

るもの、子どもたちの道徳性を育むための土台となるものは、いうまでもなく、日々のあらゆる教育活動の中で子どもたちと接している教師の姿です。

学級経営の要となる担任を含め、全ての教職員が、生徒指導の三つの機能<sup>\*</sup>を生かした教育活動を行うことが大切です。一つめは、教師が生徒一人一人を徹底的に大切にし、一人一人をかけがえのない存在として大切に思い指導し、「自己存在感」（自尊感情）を与えること。二つめは、人間的なふれ合いを大切にし、教師自らが自己開示を行い、教師と生徒がともに人間的な弱さを乗り越えようとする「共感的関係」を基盤にすること（このことは生徒どうしの人間関係にもいえることです）。三つめは、生徒の主体性を大切にし、生徒それぞれの可能性の開発を援助するとともに、社会的な自己実現を図るため自分で考えて決めて実行するという「自己決定の場」を与えること。

これらの生徒指導の三つの機能を生かした教育活動を行わなければ、教師の言葉が生徒の心に響くことはなく、また道徳教育の目標である「人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」は難しいのです。いま一度、全ての教職員が自らを振り返る必要があると思います。（※参考：坂本昇一『生徒指導の機能と方法』1990年、文教書院）

### まずは三つのCHから道徳科の授業を

学級担任は学級の現状だけでなく個々の子どもの個性や背景等を理解しているからこそ行える、道徳科の授業があると思います。多忙を極め、新しいことに対する負担感や不安感がある学校現場だからこそ、また道徳教育の大きな転換期だからこそ、チーム学校として組織的で計画的な取り組みを、見える形から始めるのも一つの方法かと思います。

すでに多くの学校で実践されているかと思いますが、教師が交代で学年の全学級を回り、得意分野に関連する内容項目の授業を行うという取り組みは、教科担任制の中学校現場だからこそ抵抗なく進めら

れるのではないかと思います。また、「主体的・対話的で深い学び」の中で「考え、議論する道徳」を行うのですから、ペア学習やグループ討議、ワークショップやディベート形式の話し合い、ロールプレイなどの活動を取り入れることも大切です。

まずは、三つのCH（PINCHをCHANCEと捉えCHALLENGEする）を胸に、道徳科の授業に前向きに、できるところから挑戦してほしいと思います。

### 「考え、議論する」教師集団

今年度は、各学校で道徳科の授業を含めた道徳教育を確実に実践しながら、組織的で計画的な取り組みの成果と課題を整理し、より生徒に機能し実効性のある道徳教育を推進させ充実させる年度です。道徳教育推進教師の役割は今まで以上に重要になり、子どもたちに直接関わっている教職員の悩みや困りごとを吸い上げ、うまくいった喜びを分かち合うような有意義な校内研修会を実施してほしいものです。校内研修会は、校内外での具体的な実践の交流をもとに、情報を共有し、授業改善や授業力の向上等を目指していく内容になるかと思います。

この校内研修会を従来の伝達型ではなく、教師自らが「考え、議論する」ことを実践し、「主体的・対話的で深い学び」となるような研修会にしてはどうでしょうか。全教職員が発言し、他者の意見を聞き、自らの考えを見つめ直す機会とし、お互いの情報を共有して合意形成を図り、自己決定していくのです。この機会に、全ての学校で全ての教職員が、研修会はもちろんのこと、職員室も含めあらゆる場面で気軽に話せ、お互いの悩みを共有し、たてまえではなく本音で語り合える教師集団をつくっていくのです。そのためには、教職員の意識改革はもちろんのこと、校長が教職員の悩みと向き合い、一歩踏み出せるような助言と支援、そして指導をすることも必要です。校長の強い信念とリーダーシップのもと、全教職員で道徳教育を通じた新たな学校づくりに挑戦してほしいと願っています。

# 道徳で 学校をつくる

## 道徳教育を核とした学校経営

むら お ゆ き や  
**村尾 行也**  
鳥取市立鹿野学園校長

### ◆はじめに なぜ道徳なのか？

「本校は今後、道徳教育を核とした学校教育を推進していきます。」

平成27年4月、校長として赴任した最初の職員会で私は宣言した。なぜ道徳なのか？ 道徳教育こそが教育の根幹だからである。教育の目的は「人格の完成」を旨とすること、それはすなわち「道徳性を養うこと」を旨とする道徳教育の目標と軌を一にする。

私は担任時代、道徳で学級をつくることを心がけていた。週1時間の道徳授業が学級づくりの場であった。生徒と一緒に考え、みんなで意見を言い合い、聞き合うことでお互いに認め合う学級へと変容していった。学年主任の時は道徳で学年をつくることに腐心した。学年集会や週1回発行する学年便りを通じて、ともに考える学年集団になることを期待した。校長となった今は、「道徳で学校をつくる」ことを学校経営方針の第一に掲げている。

### ◆これからの道徳教育に求められるもの

「道徳の時間」の特設から60年。教科化が進められた。「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）の誕生である。なぜ教科化なのか？ 我々はよくよく吟味しておかなければならない。今までの道徳に何が足りなかったのか？ これからの道徳に何が必要なのか？ 何が求められているのか？

ある大学の教育学部に在籍する学生対象の調査によると、小・中学校時代に受けた道徳授業について

「自分の人生に与えた影響はほとんどない」とする学生が7割以上いたとのことである。この間、私たちは道徳授業をやったことがなかったわけではない。にもかかわらず、である。

道徳授業が教材の単なる読み取りに終わっている、わかりきったことを聞くだけで何も学ぶものがない等々、かなりきつい批判を浴びているが、最大の理由は、子どもたちに生きる夢や希望をもたせられなかったこと、人生への感動を味わわせることができなかったことにあると考える。道徳授業を楽しくないと感じるのは、まさにこのためである。

今までの道徳授業をはじめとする道徳教育は、「人生」「人物」と出会う機会になっていなかった。いくら授業のねらいを明確に定め、発問を工夫し、導入・展開・終末を丹念に行おうと、そこに「人生」「人物」が抜け落ちていたのでは、「生きた道徳教育」にはならない。教材は描かれた絵空ごととしてすまされ、生きる夢や希望、人生への感動とは無縁のものにならざるをえない。これからの道徳教育に求められるのは、「人物」＝「生の人生」と出会わせることであるとする。

「そんな人がいたんだ。」

「そんな人生があったんだ。」

「どうしてそんな生き方をしたのだろう？」

「どうしてそんな生き方ができたのだろう？」

その人の人生の底流に流れる一筋の光を探り出すことで自らの生き方を再考し、新たな生き方を探っていく。その中で人生の指針となるべきものを凝結させていく。現実の「人物」から自らの「人生」を学ぶ。そんな道徳教育や授業が、今求められている。

### ◆人が学ぶのは人からである

人は人を通して学ぶ。「学ぶ」すなわち「まねぶ」。何かに行きつまった時、判断に苦しみ解決策が見えないと感じた時、そんな時でも決して諦めることなく前向きに生きていける人は、人生のモデルとしての憧れの存在をもっている。「あの人ならこんな

時どうするだろう？ きっとこんなふうに考え、行動するんじゃないか。よし、自分もやってみよう！」と思うことがスタートである。生き方や考え方をまねることからスタートする。憧れの存在が、自らの道筋を照らしてくれる道標となるのである。

「自分もこんな生き方をしてみたい。」と思った時、人は人生への夢や希望を抱く。その夢や希望が自分だけのものに留まらず「世のため、人のため」という視点が加わった時、人生への「志」が生まれる。そんな人生のモデル、憧れの存在を本校では「かくありたしの像」と名づけている。一人一人の子どもたちが、生涯を貫いて追い求めたいと願う「かくありたしの像」を見つけ出すことを念じつつ、日々の道徳授業、教育活動にあたっている。

#### ◆人物教材を扱った道徳授業を核に

「自らの生き方を考える道徳授業の創造～生きる指針を見いだすための道徳授業の構築をめざして～」これが本校の研究主題である。「自らの生き方を考える」際、なにより参考になるのが先人の生き方である。私たちの前には、幾千幾万人の先人たちがその時代時代を精いっぱい生き抜いてきている。特に偉人として後世にまで語り継がれているような人には学ぶべきところがたくさんある。

人物教材を扱った道徳授業づくりにすかさず応えてくれたのが、道徳教育推進教師であった。彼女は人物探しから始めた。いろいろな人物をコンパクトに紹介した本や名言集を読み、ようやく選んだ人物について20冊近い本を読みあさり、最初の教材をつくりあげ、授業に臨んだ。

授業後の彼女の第一声は「この人についてもっと知りたくなりました。もっと勉強したくなりました」。これまで、道徳の授業後に「もっと勉強したくなりました。」という感想をもった教師が、どれほどいたであろうか。皆無に近いであろう。生徒たちはどうであろう。言わずもがなである。教師がそんな思いをもったということから、人物教材を扱う

道徳授業には限りない可能性が秘められていると感じた。

この年の秋、道徳参観日を設定した。全学級で道徳授業を公開、しかも人物教材を扱った道徳授業である。各担任が、人物探し、教材づくり、指導案づくりに、夏から取りかかった。授業日の2、3日前には他の教員が生徒役となって、それぞれ模擬授業を行った（写真1）。この模擬授業は、授業者にとっても生徒役の教員にとっても大変すばらしい学びの場となった。お互いに意見を言い合うことで、みんなで道徳授業をつくっていくんだという意識が芽生えた。また、問われた側としてどう考えたかを率直に言い合うことで発問の見直しが進み、当日の授業に深まりが出た。この模擬授業形式の授業検討会はその後も継続して行っている。



写真1

さらに人物教材を扱った道徳授業の集大成として、「表<sup>あらわし</sup>驚の巣立ち式」という式を設けた。卒業を控えた3年生一人一人が、自らの「かくありたしの像」を発表する場である。自分がその人のどんなところに魅力を感じ、その人のどんなところを自らの人生に取り込もうとするのか、下級生や保護者、地域のかたの前で語る。自分自身のこれからの人生をどう生きるのか、自らの生き方を披露する場である。保護者はもちろん地域のかたにも多く来ていただき、その後の本校の取り組みとして根づいたことに感謝している。

## ◆ 道徳教育を核とした学校経営

以下、本校における道徳教育を核とした教育活動について紹介する。なお道徳授業は担任だけでなく担任以外の教職員も実践することを、共通理解して進めている。

### ① 「道研」(道徳授業事前研究会)

構成メンバーは、学年団の教員と教務団。教務団は担当の学年を決めて、それぞれの道研に参加する。週初めの時間割上に道研の時間を設定する。

本校は小規模校なので道研の時間が組みやすいといえる。大規模校だと難しいかもしれないが、部活動休止日に設定するなどの工夫は考えられると思う。週初めに道研を行い金曜日に授業を実践する。道研で検討することは、以下の3点である。

**授業のねらい** 生徒たちと何についていちばん考えたいかを明確にしておく。授業者自身の言葉でねらいを表現すること。

**自らの生き方を考える中心発問** 中心発問一つだけで授業ができるように発問を練り込む。予想される生徒の反応を可能な限りあげる。問い返しの発問を複数考える。

**導入・ワークシート** クイズ、宿題の発表、アンケート結果、写真映像の提示等々、導入で生徒の心をつかむ工夫。振り返りのワークシートの作成。

ただし、道研の時間は一コマ分の時間(5分)なので、これら3点が完成するとは限らない。それでもかまわないということで進めている。

道研までに、教材として扱う資料、教師用の指導書、『私たちの道徳』、『学習指導要領解説』を用意し、各自が読んでくる。土日に読み込み、上記3点について意見をもち寄る。特に『私たちの道徳』、『学習指導要領解説』の読み込みがポイントとなる。

道研のよさとして、次の点があげられる。複数で協議するのでいいアイデアが浮かび、家で一人で考えるよりも授業づくりが早くできる。みんなで考えるので担任の心理的負担が少ない。先輩教員の知恵

や技術の伝達ができ、教員どうしの学び合いが自然に行える。様々な教科の教員がいることで、教科特有の鋭い視点や考えを参考にできる。時間割上に位置づけているため毎週確実に実施できる。校長、教頭を含め全員で行うことで一体感が生まれる。

要するに本校の道研は、「考え、議論する道徳」をまずは教員がやってみようということである。教員自らが、みんなで考え、議論する経験を積み重ねることで、お互いの授業力向上につながっている。

### ② 参観カードと「今週の道徳」ボード

同学年・他学年の授業を積極的に参観し合う。金曜日の授業時間をずらすことでお互いに参観しやすいようにしている。養護教諭や生徒指導専任相談員等も積極的に参観しており、生徒の考えや思いを直接聞くことで生徒の人間性を感じ取るよい機会となっている。上下の学年の授業を観ることで内容項目の深まりや発達の順序がわかったり、ねらいの設定の段階がわかったりと、授業づくりに大いに役立つ。

授業参観をしたあとには参観カードに感想や気づいた点などを書き込み、授業者に還元する。授業者にとっても参観者にとってもいい刺激となっている。

また、どの時間にどの学級でどんな道徳授業があるのかを知らせるための「今週の道徳」ボードを職員室に掲示し、全員が確認できるようにしている。

### ③ 道徳授業の基本的な「流し」

人物教材を扱った道徳授業の実践を通して、通常道徳授業においても次のような「流し」が一般的になってきた。理由や留意点も併記する。

- i 生徒は宿題として教材を読んでくる。授業中は読まない。(予習としての宿題を課す)  
→生徒が教材をあらかじめ読んでくることで、授業では本当に考えたいことに時間を使うことができる。範読に時間を取られないので余裕をもって授業に臨むことができる。
- ii 中心発問一つで授業をする。本当に考えさせたいこと、一緒に考えたいことに時間を使う。  
→中心発問一つで授業するためには生徒が思わず



考えたいような発問を練る必要がある。人生の命題ともいえるような本気で考えたいような問いを、道研を通して練りあげる。

iii 生徒全員が全員の前で発言する。

→全員が全員の前で発言することでお互いに学び合う機会となる。教師も一人の人間として自らの考えを披瀝する。

iv 振り返りのワークシートは授業中に書かない。

授業は語り合う場。ワークシートは復習としての宿題とする。

→その時間も語り合いに使う。家に持ち帰って考えることで、生徒は改めてその問題に向き合い、自らの思考を深めることが可能となる。

#### ④授業後の振り返りと評価

教員にとっても授業後の振り返りは必要である。授業の板書を写真に撮り、発問や生徒の反応を1枚のシートにまとめる。生徒が書いてきたワークシートは、コメントを書き込み教室前廊下に掲示する(写真2)。この時コメントとして書き込んだ内容が学期末の評価に大変役立つ。



写真2

授業で使った資料や写真など全てのものをデータとして専用のフォルダに保存しておく。教員にとっても財産となるが、次年度への橋渡しにもなる。

#### ⑤教員にとっての「かくありたしの像」

生徒に「かくありたしの像」を求めるとすれば、教員自身も範を示すべきだと考えた。教員も自らの「かくありたしの像」をA4判1枚にまとめた。校舎内に掲示コーナーを作って掲示している。大人にも人生のモデルは必要であることを再認識した。

#### ⑥その他の活動への広がり

##### ア 各学校行事への敷衍

運動会や文化祭などの学校行事を行う際、その要項に道徳教育の視点を盛りこむ。学校行事を道徳教育の視点で見直すきっかけとなった。

##### イ 身近な「かくありたしの像」を見つけ

学校行事への取り組みの中で「自分と仲間のよさ再発見カード」を用い、お互いのよさを認め合う機会とする。先輩の姿に身近な「かくありたしの像」を見つける取り組みとなった。

##### ウ 掃除お師匠さん制度

日々の清掃活動を異学年交流の場とする。異学年どうして取り組ませることで、教員主導ではない、先輩がリードする雰囲気が出来てきた。社会性や協調性、リーダー性を育む機会となっている。

##### エ 生き方セミナー～先輩に学ぶ～

6～7名の職業人のかたを講師に迎え、それぞれの専門職での体験談を聞く機会をつくる。生徒たちは実技等を交えながらのお話から現実の生き方を学ぶとともに、キャリア教育の学習ともなっている。

##### オ 地域ボランティアへの参加

従来から盛んであった地域ボランティアへの参加がますます盛んになってきた。地域からも戦力として期待されている。

#### ◆おわりに

本校の道徳教育推進の取り組みは、人物教材を扱った道徳授業の実践から始めた。人物を扱う道徳授業で培ったノウハウが通常の読み物教材を扱う道徳授業にどんどん汎用されていった。この取り組みは、教科となった道徳の一つのあり方として、全国のがけとなるものであると自負している。

最大の特徴は、教員自らももっと学びたい、もっともっと知りたくなるといった「学び」の実感を得ることである。その学びで得た思いが生徒一人一人に伝播していく。そこにこそ教育の至高の姿＝「感化」が生まれるのである。

# 学級経営と 道徳授業

## 学級通信を活用して

し ぶ や み ち こ  
渋谷 美智子

福島市立北信中学校教諭

### ◆はじめに

#### 学級経営における道徳授業の大切さ

学級担任をしていると、生徒指導が重要だと考える先生は多いことでしょう。生徒一人一人、誰しも「見える部分（表情や行動など）」と「見えない部分（心の内）」をもっています。生徒指導は生徒の行動面から心の内へのはたらきかけであるのに対し、心の内からのはたらきかけを行うのが道徳です。学級経営をしていくうえで、生徒指導と道徳授業は両輪のようなものであり、生徒たちの心を育てるために大切なものです。

私は学級では、生徒のよりよく生きたいと願う気持ちを育てながら、一人一人の生徒を孤立させずいろいろな生徒とつながりをもたせること、一人一人のよさを学級全体に広げていくことを目指し、「つなぐ・広げる・整える」というキャッチフレーズをつくって学級経営のモットーとしています。

生徒たちをつなぎ、広げ、整えるために、日々の生活の中で道徳の果たす役割は大きいと考えます。そして道徳授業をはじめとする様々な学びや教師の思いを生徒や家庭とつなぐために、学級通信が欠かせません。

ここでは、私が学級経営において大切にしている道徳授業と学級通信について、「つなぐ・広げる・整える」のキーワードとともに紹介していきたいと思います。

### ◆道徳の授業開きで学び方を意識づける

新しい学年が始まって最初の道徳は、道徳の授業開きの時間です。一人一人みんな考えが違うのだから、話し合ってお互いの考えを伝え合うことが大切であることを伝えるために、授業を仕組みます。教材「大きな川」（『道徳授業の革新—「価値の明確化」で生きる力を育てる』1997年、明治図書出版）を使って授業を行ったあとに作成した学級通信（道徳通信）を、下にご紹介します。授業のねらいは「学級の生徒一人一人の考え（価値観）の違いを知り、その違いを尊重し合う態度を育てること」です。

授業では、自分の考えをしっかりとつとめること、また、他人の意見に耳を傾け、よいと思うことは柔軟に取り入れることを確認しました。学年の初めにこのような態度や考え方の大切さを意識づけることで、その後の道徳授業での話し合いばかりではなく、全ての学級活動における学びの深まりへとつながっていきます。

## Concentration!

1年8組学級通信 No. 21

2018/5/18

### どう説く！「大きな川」

道徳の時間で話し合いをした最初の時間でしたので、全員の意見を掲載しました。道徳の時間では、**自分の考えをしっかりとつとめる**ことを大切にしていきたいです。また、みんなが同じ意見ではないので、**人の意見をしっかりと聞く**ことの大切さにも気付いてほしいです。1つの物語を読んで、深く考えてみる。自分だったら、こうするのになあと思いを巡らす。その積み重ねが、自分自身をしっかりと生きていくことにつながっていくと思います。  
《授業目当て》「自分の意見をしっかりと持つ。」「他の人の意見をちゃんと聞く。」  
以下は、学級全員の感想メモです。

- いろいろな意見が聞けて、とても参考になりました。
- ミチコが悪いって言う人もいれば、ソウシやコジロウ、ルミが悪いって言う人もいたし、結局だれが悪いのかわからなかったけれど、**それぞれ考え方や考えることが違うんだ**なあと改めて思いました。**違う意見が聞けて良かった**です。
- みんな一人ひとりの考えがあって、**おもしろい**と思いました。とても楽しい授業でした。
- 「大きな川」を読んで、みんな**それぞれの意見**があり、共感する意見や自分とは違う意見があることがわかってよかったです。
- この話は、そもそもミチコがボートに乗り遅れなければ、こういう問題は起きなかったと思う。
- いろいろな人の意見を聞けてよかった。
- 他のみんなの意見を聞くと、別の考えがわかるので、おもしろかったです。**今回は、ちゃんと自分の意見を持ってたので、よかったです。**

学級通信「大きな川」（道徳の授業開き後の振り返り）



## ◆道徳授業で生徒の心を整える

学級経営をしていくなかで、整えるべきものはたくさんあります。生活環境を整える、学習環境を整える……。毎日の生活リズムは大切ですので、自主学習ノートなどは毎日提出することにしています。そして朝の学習時間から静かな時間をつくりだし、落ち着いて一日の生活をスタートさせることを心がけます。教科指導は教科担任に任せますが、学習環境の整備には集団としての学級のレベルが関係してくるため、担任がしっかりと関わります。

成績や結果ではなく、「みんなでやることに意義あり」と、学級全員で成し遂げていくことに重きを置いています。なかにはできない生徒も出てきます。そういうときには、学級のみんなでその生徒をサポートします。ただ集団で生活しているのではない、集団で生活するなかで協力することを学び、みんなで達成感を味わい、「このクラスでよかった」という所属感や満足感を享受させたい、そんな気持ちで生徒たちを応援します。

そして忘れてはいけないのが、生徒たちの心を整える時間です。私は、それが道徳授業の時間であると思っています。心を豊かにする時間、心を育てる時間。「心が豊かになる」「心が育つ」とは、「心のはたらきをよくすることだ」と、大先輩に教わりました。しかし何を隠そう、「道徳の授業をすると、心が整う気がするんです。」と教えてくれたのは、私の教え子だったのです。

渋谷先生の道徳の授業だと、自分から発表ができるように、自分の意見を皆に聞いてほしいと思うようにした。そして、聞いてほしいだけではなく、他の人の意見も聞きたいと思うようになった。自分とは異なる意見だとしても、その意見を考えて理解することができるようになった。高校生になっても、自分のこれからの生き方についてよく考えて、考えを深めていきたいです。

### 生徒の感想1

授業をしていると、生徒は実に自由ですばらしい発想をしていると感心します。生徒たちには、思ったことや考えたことを自由に発表してもらいたいし、授業者は、その舵取り程度でいいのではと思っています。自分も一緒になって学び考えていくことが、教師の醍醐味ではないかと思うのです。

## ◆道徳授業で本音で語り合い、いじめに向き合う

いじめ問題に対する取り組みの一つとして道徳でも授業がいろいろと行われてきましたが、本音での話し合いが難しく、表面的な通りいっぺんの意見の出し合いで終わってしまうことが、課題としてあげられています。私は日頃、子どもたちの中に「いじめはいじめられる側にも問題がある」という考えがある限りは、いじめはなくなれないと感じていました。そしてそのことについて、学級全員で一度話し合ってみたいと思っていました。中学校には、生徒たちがいろいろな小学校から、新たな気持ちで入学してきます。中学1年生の、まだ問題が起こらない1学期中（6月頃）に学級全員で話し合うことが必要だと考え、2時間の授業を設定しました。

Concentration!

1年6組学級通信 No. 13
2018/4/24

### 素晴らしい集団の中で、自分自身を磨きましよう！～集団と個人の関係～

入学してから2週間が過ぎました。授業が本格的に始まり、部活動も始まります。学習では、毎日提出の自主学習ノートに加えて、英語練習ノートのBノートの提出も始まりました。本格的な中学校生活のスタートです。新年度を迎え、みなさんのやる気は至る所で感じてきましたが、今日からまた気持ち新たに学習、生活、部活動に励んでもらいたいと願っています。

中学教師として長年やってきて、やっぱり最後は、個人個人がそれぞれの道に向かって進路実現していくことが中学校の醍醐味だと思っています。それでは、個人が属する集団の大切さは・・・

よく例えの話として用いるのは、Bノートなどの提出物についてです。30人いるクラスで、29名が提出物を提出していただきます。そういうクラスでは、残りの1人も提出しないと気まずい雰囲気になってきます。みんなが頑張っているのだから、自分1人くらいにはなりづらいですね。逆に、30人のクラスで、29名が提出物を出さないクラスにいたとしましょう。1人しか提出物を出さないクラスです。そういうクラスにいます。「自分を出さなくてもいいかなあ…」と、ついつい甘えた気持ちになり、きちんと提出し続けることが難しくなってきます。

あなたは、どちらのクラスに所属したいですか？

集団の意識が高いクラスに身を置くと、集団に助けられて、自分も頑張れるよ

学級通信「集団と個人の関係」(担任からのメッセージ)

いじめに関するできるだけ明るい教材を選び、授業を行いました。いじめに関してそれぞれ経験があるであろう生徒たちの本音を引き出すために、「いじめにはどういうものがあるのか。」ときいてみました。生徒たちからは、大人でもびつくりするようないじめの話が飛び出てきました。

「いじめは、もちろんいじめるほうが悪いけれど、いじめられる側にも問題があるの？」ときくと、多くの生徒が「そうだ。」と答えたのです。ここからが勝負とばかり、生徒たちの考えを否定せずに聞くことに専念しました。大人たちの考えや通りいっぺんの話をして、「いじめはいけない」という価値を押しつけたりはしません。生徒たちの話し合いに蓋をしましてはいけないと思うからです。ここは、思いの全てをはき出させるべく、子どもたちの立場で話をさせます。学級全体で、「いじめられる側も悪い」という話になるのですから、不安になったり、考えがゆれたりする生徒も出てきます。生徒たちに自分の意見を書かせて、1時間めを終えます。

2時間めは前回の授業で生徒たちから出た意見を検討することから始めました。ほとんどの生徒が「いじめられる側にも、少しは問題がある。」と答えていたのに対し、「もし学級でいじめが起こった場合、いじめられる側にも問題があるのだからしかたがない、と片づけてしまってもいいのでしょうか。」と授業の最初に問いかけると、生徒たちは困った顔をしていました。

2時間めでは、いじめの残酷さが描かれた教材を使用しました。生徒それぞれの経験談ではなく、同じ教材を使い、同じ土俵の上に立って考えることが大切です。教材を読み、「もし自分だったら」と考えさせる（自我関与させる）と、多くの生徒が「いじめられる側にも問題がある、という考えでいいのだろうか？」とこれまでの考えに自然と向き合っていました。こういうときは、子どもたちの感じる心を大切にしたいと思います。ここでは、「いじめられる側は悪くない。いじめる側が悪い」という考えを絶対押しつけてはいけないのだと思います。生

**Concentration!**

1年3組学級通信 No. 472015/6/11

**どう説く? 「いじめっ子の気持ち」**

「いじめ」は、いじめられる側にも問題があるのでしょうか？  
いじめられる側にも問題があるから、「いじめ」が起こるのは、仕方がないのでしょうか？  
みなさんの考えを紹介します。

**「いじめ」とは…**

複数 対 一人、からかう、悪口、もの隠し、仲間はずれ、暴力、閉じこめ、相手が嫌がっていることをする、無視、命令する、ばしり、落書き、いたすら、菌あつかい、グループラインからはずす、既読スルー、空気扱い（いたにいないような扱い）

**【いじめる方が悪い】10人**

- いじめをされる方は、悪くない。
- いじめは、一番嫌である。
- いじめは、絶対ダメ。
- いじめられている方に、問題はない。
- いじめられている方に何かから嫌なところがあるからいじめられるかもしれないが、いじめは間違っている。
- 99%はいじめっ子に問題があり、1%はいじめられる方にも問題がある。結局、いじめる方が絶対悪い。

○いじめられる方にも問題があるかもしれないけれど、その問題を教えて（伝えて）あげたら、いじめにはならない。

**【いじめられる方にも問題あり】12人**

- いじめる方も悪いけれど、いじめられる方にも理由がある。
- どっちも悪いときと、いじめている人が悪いときがある。
- いじめられる方に問題は、少しあると思う。
- いじめられる子は、いじめる子の気に障るようなことをいったからいじめられると思う。（何かしら理由がある）
- いじめられる方に、問題があるときとないときがある。
- いじめられる方にも問題がある。
- 結局は、どちらにも理由がある。

学級通信「いじめ問題に向き合う①」（生徒の考え）

**Concentration!**

1年3組学級通信 No. 612015/7/2 (木)

**どう説く! 「いじめ」**

前回の「いじめ」についての学習では、「いじめられる」方にも責任があるのでは…という考えが寄せられました。問題が起きた場合、たいてい、両方に問題がある場合が多いです。だからといって、「いじめ」でしまってもいいのかが、「いじめられる」側が悪いのか？ 道徳資料「わたしもいじめた一人なの…」を使って、主人公の気持ちを考えてみました。

**最後に殴りつけたのはなぜ？**

- ・怒り・「なんだこいつ」・ムカついたから
- ・みんなは感謝の気持ちなのに、その男の子は、同じ人間として悲しい。
- ・いじめられた子の優しさをわからないから
- ・初めて泣いた女の子の姿を見て

**どうして「いじめ」は止まりたいのか？**

自分も外されるのでは…という思い  
いじめのリーダーに従わないと…  
懐れっこ（講子に乗ってしまう・遊び）

○いじめられる側にも問題は無い、と今日の学習で思いました。そしてどんな理由があっても、いじめられる側にはいけないと思います。私だけでなく、みんな一人ひとりがそう思うことで、人間の真の優しさが行動に現れて、いじめが減っていくんだと思います。

○この話を讀むと、自分もいじめられたくないという気持ちから、いじめる側になる気持ちもわからなくはない。でも、だからといっていじめていいということにはならないんだ。と改めて実感しました。

○自分がいじめられるのが嫌で、他の人をいじめてしまうのは、絶対にしやいけないことだと思った。いじめられている人がいたら、止めてあげたいなと思いました。

○いじめられる側が悪いときも悪くないけれど、いじめる人やいじめを見る人のほうが一番悪いと思う。

○前の道徳の時間で「いじめられる側にも問題がある」と答えていたけれど、自分のこととして考えてみると「いじめる方が悪い」と思いました。

学級通信「いじめ問題に向き合う②」（生徒の考え）

徒たちは自ら、「どんな理由があるにせよ、いじめの側が悪い。」という価値に気づいていきます。

このような話し合いを1学期にもつたにもかかわらず、2学期後半にいじめが起きました。加害者の生徒には厳しく指導をすると同時に、学級全体に向けては、1学期に話し合ったあとに作成した学級通信（「いじめ問題に向き合う②」）を淡々と読みあげました。1学期に自分たちが出した考えに立ち返り、いじめについて、もう一度考えさせたのです。それ以降、いじめはなくなりました。

生徒たちは、実に不安定な世界にいるのかもしれませんが。一度話し合い、考え、自分なりの正答を見つけておきながらも、それは絶対にはなり得ないのです。だからこそ、ふだんからよく生徒たちを観察することが大切だと感じています。そして、いじめの問題について話し合いをもつこと、道徳授業で学ぶことは、いじめ防止に直結すると考えています。

### ◆学級通信の活用

学級は集団として捉えられますが、その学級を構成しているのは一人一人の生徒たちです。生徒一人一人のよさや考えを学級のメンバーに広げていくために、学級通信はとても有効です。

学級通信に載せる内容は様々です。新学期の抱負、目標、組織などみんなで話し合っただけの内容、行事の写真や感想、中体連大会の様子、なにげない日常のひとコマ、担任からのメッセージ……。そして道徳授業の感想といった、「道徳通信」のはたらきもこなします。道徳授業で考えたこと、発言したことは、その時間が終わると消えていってしまいま

「たくさん道徳を学べると、自分の考えがとて深まり、他の人の意見を聞いた時に自分の考えとどう違うのかを考えられるようになった。お互いの意見を交換し合くと、自分では考えつかなかったことを聞くことができました。学級通信で他の人の意見を知ることができると、とても良かった。幅広い考えを持てた。

生徒の感想2

す。私は、道徳授業をしたあとには、必ず道徳通信を出すように心がけています。1時間の授業だけでは拾いきれなかった生徒の思いや考えをすくいあげ、通信を使って、生徒に返したいという思いからです。板書を画像にして残すことも試みますが、話し合いが白熱すると、板書することもままならない時もあります。板書だけでその時間を切り取るのは無理があります。

伝えたいこと、伝えたい思いはたくさんあります。学級通信は、学級内の生徒一人一人の考えや思いを広げ、つないでいく場なのです。

### ◆おわりに

これまでの自分の実践や思いを振り返りながら書き進めてきました。生徒のことを思えば、ときには「ダメなことは、ダメ!」といった厳しい指導をすることもあります。深い愛情をもって生徒の成長を願いつつ日々接していくことを心がけています。そのために道徳の授業は欠かせないし、そこでの学びや生徒のよさ、考え、担任からのメッセージを伝える場として、学級通信は大きな役割を果たしています。

学級経営とは、生徒のよりよく生きたいと願う気持ちを育てながら、生徒一人一人をつなぎ、そのよさを広め、学級全体として育てていくものではないかと感じます。それぞれが相互に影響し合っ、それぞれに育っていく。1年間、ともに過ごした生徒の内面の成長ぶりは、その身体の成長に負けず劣らず、すばらしいものがあります。



学級通信文集 「生徒と過ごした1年間の記録」

# 小さな道徳授業を 学級経営に生かす

すずき けんじ  
鈴木 健二 愛知教育大学教授

## 学級経営と道徳授業

小さな道徳授業を子どもたちが、とても楽しみにしてくれています。1時間の道徳授業も楽しみにしてくれています。

小さな道徳授業を頻繁に実践している今年は、子どもたちが友達と上手に関われるようになるのが早いと感じました。

常に道徳を学んでいる環境のほうが、友達を思いやる意識が持続しやすくなるからだと思います。

友達とうまく関わると、子どもたちは本当に幸せそうな顔をします。学級に自分の居場所を見つけた安心を感じるからだと思います。

学級づくりをするとき、個と個をつなげる手立てを考えますが、小さな道徳授業は、いちばん効果のある手立てだと思います。

これは、小さな道徳授業に取り組んでいる教師の手応えです。三つの効果が読み取れます。

- ① 1時間の道徳授業との相乗効果
- ② 子どもの育ちへの効果
- ③ 学級経営への効果

小さな道徳授業を活用することによって、子どもの心が育ち、学級経営の充実が図られていることがわかります。

まさしく、

道徳の時間は学級経営の時間

なのです。

## 小さな道徳授業とは

小さな道徳授業とはなんでしょうか。それは、

朝の会や帰りの会などを活用して行う  
5～10分間の道徳授業

のことです。

教師自身がいいなあと感じた素材(教材)に、発問を一つか二つ考えればできあがりです。

工夫してほしいのは、教材を提示するときに「興味関心を高める工夫をする」ということと、「思考を刺激する発問を工夫する」ということです。

右ページの写真を見てください。

たまたま通りかかった建設現場で発見した看板です。書かれている言葉も、特に珍しいものではありません。しかし、驚いたのは看板の大きさでした(看板の後ろのワゴン車から大きさがわかります)。

プロの職人が仕事をしている現場に、なぜこんな大きな看板を掲げる必要があるのでしょうか。それは、当たり前のことをきちんとやり続けることは、プロの職人にとっても簡単なことではないからでは



ないでしょうか。

小さな道徳授業を開発するためには、このようななにげないモノに自分なりの意味づけをすることが大切です。それが授業のねらいになるのです。

### 小さな道徳授業をつくる

そこで、この看板を活用して、「凡事徹底」をしっかり意識することの大切さに気づかせるとともに、自分たちの学級に必要な「凡事徹底」について考えさせる授業を構想することにしました。

①「凡事徹底」の言葉を隠した状態で写真（看板の部分のみ）を提示し、発問します。

**発問1** この隠れた部分には、どんな言葉が書いてあると思いますか。

「当たり前のこと、やるべきことを当たり前に行う。」という言葉は見えるようにしておくところがポイントです。この言葉を手がかりにして、上に隠れているのがどんな言葉かを考えることができるからです。生徒からは次のような言葉が出されるでしょう。

- ・当たり前を大切に
- ・きちんとやろう
- ・手抜きをしない

考えが出つくしたところで「凡事徹底」の言葉の

部分を見せ、意味を確認します。

②「この看板はアパートの建設現場にあったのですが、これを見て不思議に思ったことがありました。」と言って写真の全体像を提示し、発問します。

**発問2** 建設現場では建設のプロの人たちが仕事をしています。そのようなところに、どうしてこんな大きな看板が必要なのでしょう。

生徒からは次のような考えが出されるでしょう。

- ・建設のプロの人でも、油断すると失敗したりするから。
- ・やるべきことをきちんとやらないと、よい仕事はできないから。

③学級に必要な「凡事徹底」を考えるため、次のような発問をします。

**発問3** 新しい学年がスタートしました。この学級に必要な「凡事徹底」はなんなのでしょう。

生徒からは次のような意見が出されるでしょう。

- ・人がいやがることをしない。
- ・困っている人がいたら助ける。
- ・友達の意見をしっかりと聞く。
- ・自分の仕事を最後までやり遂げる。
- ・掃除を丁寧にやる。

様々な意見の中から、自分がいちばん意識してやっていきたいことは何かを考えさせ、短冊に書かせます。短冊は教室に掲示して意識が持続するようにします。

この小さな道徳授業を学年の早い時期に行うことによって、学級の「凡事徹底」を意識するようになります。これが学級経営の充実につながっていくのです。

# ありのままの自分を大切にできるクラスに

ちば こうし おとふけ  
千葉 孝司 音更町立音更中学校教諭

## 自分を認められない日本の子ども

国立青少年教育振興機構による「高校生の心と体の健康に関する意識調査報告書〔概要〕—日本・米国・中国・韓国の比較—」(2018年3月)に、次のデータがある。「私は価値のある人間だと思う」に「そうだ」「まあそうだ」と回答した高校生の割合が、米国 83.8%、韓国 83.7%、中国 80.2%、日本は 44.9%というものだ。日本の子どもの自己肯定感の低さは突出しているといっている。

子どもの自己イメージは、それまでにかげられた言葉に大きく左右される。日本は謙譲や謙遜を美德とする国であり、日本の大人はほめ言葉を口にするのを苦手としてきた。安易にほめると慢心したり油断したりするのはと考へ、子どもに高い目標を設定させ、がんばれ、がんばれと叱咤激励する。そんな大人も多いであろう。

子どもは無条件の承認を必要とする存在である。だが子どもの周りには、ほとんどが条件付きの承認である。子どもはそれを満たすために努力し、認められるような存在になろうともがいている。だが、努力が実を結び、自分も周囲も満足させるような結果を残すことができるのは一握りの子どもである。

すると子どもは、自分が努力し人より上に行くことを目指すのではなく、誰かを見下し、「あいつよりしました」ということで安心しようとするのである。これはいじめの大きな動機となる。

## 互いのよさから互いの存在を認め合えるクラスに

互いのよさを認め合えるクラスをつくりたいと多くの教師は思うであろう。しかし人を認めるという行為が、他の人より優れているところがあるから認めるということであれば、どうであろうか。本当に全員が、全員のよさを認め合えるクラスはつくれるのだろうか。

自己肯定感は、自分の価値を認められる感情だが、それは人よりも優れている部分を認められるという意味ではない。人よりも優れている面、劣っている面も含めて、ありのままの自分を認め大切にできることである。もちろんリフレーミングなどを用いながら互いのよさに目を向けることは大切である。だが、「今の自分でもいいんだ」とありのままの姿を認め合うことができれば、クラスの中で自己肯定感を育む土台となるのではないだろうか。

### 道徳授業「ありのままの自分を大切にできるクラスに」

内容項目 B-9 相互理解、寛容

本時の目標 自分や他の人のありのままを尊重することの大切さに気づき、いじめのない学級を築いていこうとする心情を育む。

本時の展開 ◎…教師の主な発問・指示等 ◆…生徒の活動

導入 「価値のあるもの」について考える。

◎「価値のあるもの」と聞いて、何を思い浮かべますか。

◎次のものを、価値があると感じる順に並べてみましょう。

お金 友情 時間 才能 命 知識 外見 思いやり  
個人で考えてから、グループで順位づけをする。

展開1 自身に価値を見だしにくい現状に気づく。

◎これはなんの割合だと思いますか。

米国 83.8% 韓国 83.7% 中国 80.2%

日本 44.9%

これは高校生に行った意識調査の、「私は価値のある人間だと思う」という項目に、「そうだ」、「まあそうだ」と回答した生徒の割合です。

◎自分の価値を感じる日本の高校生が少ないのはどうしてでしょう。

「人に自慢できるような長所がない。」

「自信がない。」

自己イメージは周囲からかけられる言葉に影響を受けます。「優しいね」という言葉を多くかけられていると「優しい」という自己イメージができあがってきます。ひょっとすると日本の子どもは、否定する言葉を多くかけられていたり、お互いにかけていたりするのかもしれませんがね。

#### 展開2 自己肯定感について考える。

否定の反対は肯定です。自分の価値を感じるためには、自己肯定感が大切です。自己肯定とは「何かができる」ということではなく「できなくてもいい」と思えることです。もちろん勉強をせずにテストで0点でもいいという意味ではありません。今のありのままの自分をOKだと思う部分があって、そのうえで、より成長を目標として努力することが大切です。

◎皆さんの得意なこと、不得意なことは为什么呢うか。

◆ワークシートのAに個人で記入する。

#### 展開3 自分自身を多角的に考える。

◎グループの人が書いたAの事柄について、コメントをしてください。「得意なこと」は惜しみなく褒めたたえ、「どちらでもないこと」や「不得意なこと」には、本人の気づいていないよさを、ポジティブな言葉で書き、伝えましょう。

◆グループの人のワークシートのBに記入し、回していく。

(予想される生徒の反応)

- ・いつも仕事を一生懸命やってくれて助かります。
- ・走るの速いと思うよ。
- ・いつも笑顔でいいと思う。頭が悪いなんて、そ

んなことないよ。前にわからないところを教えてくださいよね。

◎グループの人たちからのコメントを受けて、皆さんの今の気持ちを「今の自分って悪くないかも。だって」に続く形で書いてみましょう。

**終末** 教師の説話を聞き、感想を書く。

自分を否定している人は、他の人を否定します。自分を肯定できる人は、他の人も肯定できます。自分では嫌だなどと思っている部分もあるかもしれませんが、それも含めて自分自身です。最後に星野富弘さんの詩を紹介します。

痛みを感じるのは 生きているから

悩みがあるのは 生きているから

傷つくのは 生きているから

私は今 かなり生きているぞ

(星野富弘『《花の詩画集》花よりも小さく』

2003年、偕成社より)

名前		
A	得意なこと	どちらでもないこと
		不得意なこと

↓

B	より
	より
	より

↓

今の自分って悪くないかも。だって

感想

ワークシート「ありのままの自分」



第17回

# 地球となかよしメッセージ

## 作品募集(2019年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、  
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に  
参加賞が  
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2019年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

- ◎主催 / 教育出版 ◎協賛 / 日本環境教育学会
- ◎後援 / 環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
- \*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

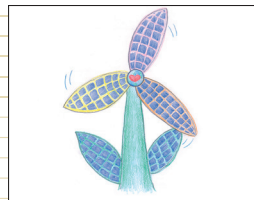
応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



「地球となかよし」事務局 TEL. 03-3238-6862 FAX. 03-3238-6887  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回  
入選作品



地球を救う花

この地球を救う花は、まずお花なので二酸化炭素を吸って、酸素を出します。それに葉と花びらは太陽光パネルになっているので、発電も出来ます。さらに花びらの部分が風で回って、風力発電も出来る花です。

みんなが大好きな自然と地球が私達の何代も先の未来でも、愛されて続けるように、こんなお花が地球中にたくさん色鮮やかに咲くといいと思いました。(中学3年)

中学道徳通信 とびだそう未来へ〔2019年 春号〕 2019年3月31日 発行 表紙写真：(C)Pylelessimages, Inc/amanaimages

編集：教育出版株式会社編集局

印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：伊東千尋

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864(お問い合わせ)

URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



### なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F  
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F  
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F  
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F  
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F  
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2  
あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F  
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F  
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒812-0007 福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室  
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F  
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」のっとり、配付を許可されているものです。